

海岸まちぢから

第13号

住んで良かったまちづくり

発行日 2025年(令和7年)1月1日
発行人 海岸地区まちぢから協議会
会長 林 正明
海岸地区コミュニティセンター
TEL 0467-82-6618
印刷 ストリートファクトリー
TEL 0467-81-5594



新年ご挨拶

海岸地区まちぢから協議会

副会長 丸山 泰

新年あけましておめでとうございます。

長く続いたコロナ禍も社会的にはほぼ終息し、皆様におかれましては穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

海岸地区お正月の風物詩、箱根駅伝の沿道観戦に多くの方が行かれる事と思います。

昨年は嬉しい出来事として東海岸出身の松田詩野選手がパリ・オリンピックにサーフィン競技で、田中映伍選手がパリ・パラリンピックに水泳競技で、それぞれ日本代表として出場活躍しました。

両選手とも4年後、ロサンゼルス・オリンピック・パラリンピックを目指すとのことで、メダル獲得を期待し応援していきたいと思います。

このようなオリンピック・パラリンピック日本代表選手を生み出す海岸地区(東海岸)は東に江ノ島、南に烏帽子岩、西に富士山、北に丹沢山を望み景勝地としても心休まる地域です。

近年子育て世帯の移住者が多く、移住者の方は「海岸地区の魅力は子育て環境に恵まれスローで、のんびりした雰囲気憧れて引っ越してきました。ベタベタしない距離感を保った街であり、

そうした街でありながら防災訓練等安全対策、盆踊り等地域のお祭り行事、子育て世帯の支援活動等が当たり前のように開催され地域の温かさを感じビックリし『住んで良かった街』と感じています。」と感想を述べています。

これら活動の中心を担う、まちぢから協議会は12の自治会・社会福祉協議会・民生委員児童委員協議会・青少年育成推進協議会・体育振興会・包括支援センター等の団体そして地域にお住まいの方々が一体となり地域課題に取り組み、課題の解決、地域力向上を図り活動しております。

また自治会員以外の方々にもホームページを活用した情報提供及び情報伝達を充実して活動を周知してまいります。

第一中学校の校歌に『我らが誇り茅ヶ崎一中』と言う歌詞がありますが、海岸地区の皆様は『我らが誇り東海岸』とだけ思っていたらダメなように皆様のお力添えをいただきながら、まちぢから協議会活動をして参りますのでご参加・ご協力をお願いいたします。

末尾になりましたが、皆様にとって今年一年が素晴らしい年でありますよう心よりお祈り申し上げます。



海岸地区まちぢから協議会には広報部会、防災安全部会、イベント企画部会が組織され、それぞれ、まちぢから協議会の活動の一端を担っています。

防災に関する資格を持っている、写真撮影が趣味、ホームページを作ったことがある、広報紙発行の経験がある方などで、まちぢから協議会の活動に関心のある方のお力を求めています。ぜひご参加ください。

ご参加いただける方は、メールアドレス

kaigan.machidikara@gmail.com にご連絡ください。

部会員募集!!



「海岸地区盆踊り」開催

2024年の「海岸地区盆踊り」は、8月18日(日)に例年同様、東海岸小学校グラウンドで開催しました。連日の猛暑日が続く中、前日準備、当日準備、開催翌日片付けなど、150人を超す実行委員の皆様のご尽力によって、無事、大盛況のうちに終了出来ました。近隣の皆様ほか関係者のご協力に厚く御礼申し上げます。

当日は大勢の子どもたちを含め2,000人近い方が来場され、皆様に「海岸地区まちぢから協議会」を知ってもらう事を目的に「海岸まちぢから」のウチワ2,000枚を全員に配布しました。

夕方6時から、菱沼祭囃子保存会の太鼓演奏で始まり、その後も檜の上で、最後まで演奏していただきました。

盆踊りの曲目も、皆様がよくご存じの炭坑節、東京音頭、茅ヶ崎ふるさと音頭、神奈川音頭などを、繰り返し演奏し、また多数のご婦人方に踊り指導も兼ねて参加していただいたので、来場者の方たちも気持ち良く、楽しく、踊っていただきました。

中間の休憩時間には、プランティーさんのアイスキャンデー 1,000本を、子ども達を優先に無料で配布し大変よろこんでいただきました。

各自治会や東小、茅小の推進協、民児協等「海

岸まちぢから」のメンバーには飲食の模擬店を出してもらい、焼きそば、ポップコーン、フランクフルト、カキ氷、焼き鳥、飲み物を販売いたしました。そして今回からは海岸地区内のプランティーさん、魚卓さん、グルメリアさん、K.OHANAさんに出店してもらいました。2025年にはもう少し出店を増やしたいと思います。

2023年はテント模擬店に並んでいる方々と、盆踊りを踊っている方々とが、混雑したことを反省し、2024年は場内整理の実行委員を3倍の20人に増員し整理に当たりましたので、混雑することもなく、整然と踊れました。また飲食する方々の場所もシートを増やし、ゆっくりと休めることが出来たと思います。

海岸地区には神社が無いので、唯一の盆踊りの会場である東海岸小学校グラウンドでの盆踊りを、今後より充実させ茅ヶ崎一番の盆踊りをめざして、頑張ってまいりますので皆様のご協力の程、よろしくお願いたします。

また、賛助金にご協力いただきました多くの、お店や事務所、個人の方々に、紙面を借りまして厚く感謝申し上げます。

(海岸地区まちぢから協議会 会長 林 正明)



第49回海岸地区市民集会



2024年10月5日(土)に茅ヶ崎公園体験学習センター「うみかぜテラス」において第49回海岸地区市民集会を開催いたしました。

当日は、一般市民34名、市長及び行政職員13名、県会議員・市会議員6名、まちぢから協議会運営委員13名が参加しました。

今年度は「災害時に備えての海岸地区の避難場所問題」をテーマとして取り上げ、7月～8月に海岸地区の皆さまから、市・行政に対する質問を公募し、事前質問として市に提出いたしました。

市民集会当日は、市の担当部署から各事前質問に対する行政の対応策が説明され、さらに市

民から関連質問及び提案があり、市の担当部署の責任者と活発な意見交換を行いました。

当日の意見交換だけでは解決策を見出すことが難しい課題については、市担当部署が持ち帰り、関係部署と協議の上、今後の施策について後日回答をいただきました。

なお、市民集会での事前質問に対する行政からの回答、参加者からの関連質問、及び持ち帰り課題に関する回答等の具体的内容につきましては、皆さまに配布いたしました「第49回 海岸地区市民集会報告」をご覧ください。

今後も、「住んで良かった海岸地区」を目指して行政と市民が直接意見交換する場として、意義ある市民集会のあり方・実施方法を検討してまいります。

(市民集会グループ長 今泉 勲)



合同防災訓練を開催

2024年度合同防災訓練が10月19日(土)、東海岸小学校で開催されました。

今年度は2022、2023年度に行った避難所開設訓練を活かし、はじめて地域住民の方に避難者として参加していただきました。今回の訓練の重点ポイントは次の3点です。

ポイント1〈地域住民の初参加〉

今回の最重要ポイントは始めて地域住民のかた方に、避難所がどのような場所で設置され、避難するにはどのような手続きが必要なのかを実体験

していただく事であり、設置・運営側にとっては住民が安心と信頼感をもてる対応が出来るかでした。

2年間の実施訓練が効果を奏し、テント・受付の設置などは実行委員全員が迷うことなく実行出来ました。大変嬉しかったのは初めて避難テントに入ったご家族が「毛布を持ってきた方が良いね、あと何が必要だと思う?」、「こんな感じなんだ!」などの会話をされていたことでした。

訓練を自分事にしていただけたこのご家族は、災害時対応についての家族会議もきっと実施してもらえると確信しました。

ポイント2〈ペットの同行・同伴避難〉

海岸地区には約1,700頭のペットがいるものと思われる。

昨年からスタートした「ペット避難所の実状を見て考える」から、今年は避難者全員の安心を念頭に、海岸地区まちぢから認定「ペット避難所管理リーダー」育成事業を立ちあげました。

通常の避難所の入所体験と座学受講を3級の必須条件とし、1年かけて1級まで取得していただきます。その上で、ペットを同行・同伴した方々と一般の避難者と双方が安心して心地良く避難所生活を過ごしていただく役割を担うことができるペット避難所管理リーダーの育成がこの事業の目標です。今年度は38名参加、23名の2級申込みがありました。

なお、ペットの避難についてはJ-comチャンネルで紹介されました。下記のインターネット・アドレスでご覧いただけます。

<https://m.youtube.com/watch?v=RFUszrTYsBI>

ポイント3〈全世代が参加する訓練に〉

避難所運営人員は高齢化してきており、新たな避難所開設・運営の経験を持つ人材の育成が必要になっています。その一助として、たまの休日子ども達を連れて来ても飽きない訓練にするための工夫として、防災に係わる体験イベントを10種類選び、スタンプラリーを実施しました。

避難所体験を必須項目として防災対策課、保健所をはじめ、地元企業から「車中泊」提案用の車の展示やそれに伴うキャンプ用品展示、泥水も飲料水に出来る浄水器で浄化した飲料体験など多種多様なイベントを実施し、その中で一番人気は「防災食アイデアコンテスト」でした。参加したチームの中で、レトルト防災食をアレンジした包括支援センターあいチームの「中華粥風味」が優勝しました。

イベントは、いずれも長蛇の列で若い方の参加が多く、来年は若手の視点をより活かした訓練を目指し「海岸地区なら災害を乗り越えられる」と思える明確なビジョンを掲げ、地域防災力を高めていく所存です。（防災安全部会長 山田 秀砂）



編・集・後・記



12月になっても、秋が続いているようだ。寒さが苦手な高齢者にとっては有難いことだが、地球温暖化が原因だと考えると由々しいことでもある。気候環境が変わるといことは、我々を取り巻く生息環境の変動に繋がるわけだから事は重大だ。一方、国際会議では気候変動対策に進展が見られず将来に不安を抱かせる。

来年1月には、アメリカ合衆国大統領がトランプ氏に代わり、世界情勢は激変すると言われている。一方、日本の政界も少数与党という不安定な情勢となっている。内外ともに2025年は明るい見通しが描けないような感がある。明るい話題は大リーグでの大谷選手の活躍だけという昨年と同じことにならないよう祈るばかりだ。(M.M.)